

あじさい平和のつどい

梅林・白山、華陽、華陽診療所九条の会

2023年6月10日(日)午後2:30~4:30

華陽公民館 1階ホール

沖縄の今と軍拡・増税

—南西諸島を中心に—

琉球大学名誉教授

岐阜県平和委員会常任理事

武藤清吾

aogaeru0724@gmail.com

目次

- 0 琉球方言の継承
- 1 復帰50年の沖縄
- 2 2022年の選挙イヤーを振り返って一分断される民意
- 3 南西諸島で進む軍事要塞化と住民被害
- 4 交流の島沖縄
- 5 沖縄で学んできたこと、岐阜県の課題

今日お話ししたいこと

東アジアの中心に位置していた沖縄は、琉球時代から経済でも文化でも交流の島として存在してきた。近代になり、軍事と戦争が持ち込まれ、平和に生きてきた沖縄の人々の権利が侵害されて、今に至っている。憲法9条のもとで平和に生きる権利を実現したい。



【キーワード】

- ・アイデンティティ
- ・自己決定権、平和の権利
- ・東アジア、東南アジアの平和の拠点としての沖縄

0 琉球方言(しまくとぅば・うちなーぐち)で ご挨拶します

- はいさい。ぐすーよー ちゅううがなびら（皆さんこんにちは）。
うちなー、むとぅぬせいご やいびーん（私は武藤清吾です）、
ゆたさるぐとぅ うにげーさびら（よろしくおねがいします）。
- しまくとぅば 島ことば
- うちなーぐち 沖縄語
- 沖縄は3母音（あいう） 本土は5母音（あいうえお）
- 琉球方言 え→い お→う
- 琉球諸語（方言）は、日本語を源流とすることば（やまと語と同じ）

こんな琉球方言も

- **いちゃりばちよーでい** 一度会ったらみんな兄弟
- **なんくるないさ** 何とかなるさ

「本当は、自分たちの力じゃあどうにもならなくなった時に、目上の人や、周囲の人たちが、祈りとともにかけてあげる言葉なんだという事を知り、その言葉の持つ音の柔らかさと、優しさと明るさみたいなのがとても心に染みてきた。」
(琉球新報 コラム「南風」「なんくるないさ」2013年1月17日)



沖縄県『語(かた)てい んーだな しまくとぅば
沖縄県 しまくとぅばハンドブック』<https://www.pref.okinawa.jp>



翁長雄志知事の琉球方言普及 (2015年2月の全国知事会での挨拶より)

ハイサイ グスーヨー チューウガナビラ。

(こんにちは 皆さん、ごきげんいかがですか。)

昨年(2014年)12月に沖縄県知事に就任いたしました翁長雄志です。よろしくお願い申し上げます。

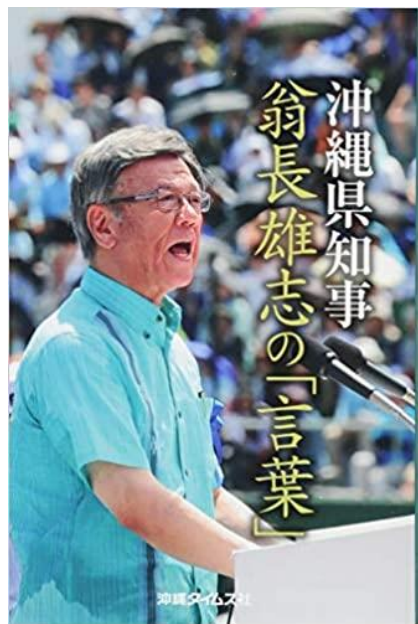
私は、平素から「しまくとぅば」(島言葉＝沖縄方言)の普及啓発に取り組んでおります。「しまくとぅば」は、沖縄文化の根源であり、沖縄の誇りある伝統や文化を次世代へ継承するため、行政のトップとして、日頃から使用の励行に努めております。(以下略)

ユタサルグトウ、ウニゲーサビラ。イッペーニフェーデービル。

(よろしく願いいたします。誠にありがとうございました。)

翁長雄志知事の言葉

- ・ うちなーんちゅ、うしえーていーないびらんどー（沖縄人をないがしろにしてはいけませんよ）。（「翁長知事あいさつ」より 5・17 県民大会）2015年



- ・ **ぬちかじりちばらなーやーさい**（命のかぎり頑張りましょう）（「翁長知事を支え、辺野古に新基地を造らせない県民大会」2017年8月12日）
- ・ **イデオロギーよりアイデンティティ**（思想・信条よりも人としての尊厳・帰属）

1 「沖縄施政権返還」「本土復帰」51年

- **沖縄返還** 沖縄を日本に返すという意味
沖縄の自主性が尊重されない言葉
米国の所有から日本の所有にすること
- **沖縄施政権返還**
沖縄は戦後27年間、米軍の統治下
日本国憲法が適用されず、立法・行政・司法の施政権は米国
その施政権が1972年5月15日に日本に返還されたこと
- **本土復帰・日本復帰・祖国復帰**……場面。立場で使い分け

本土復帰後の沖縄 想定を超える変化

- 日米同盟、米軍基地再編にともなう基地従業員の大量解雇

「佐藤・ニクソン声明」沖縄返還決定後12月4日、2400人解雇
1972（昭和47）年5月までに7000人の解雇
復帰後の構造的な高失業率の要因 現在まで続く

- 経済の混乱と住民の不安

復帰前後のドルショック、急激な円高、インフレ、通貨切替による損失への不安 政府 差額特別給付金

- 沖縄国際海洋博覧会（本土復帰記念事業、1975年）

経済振興の起爆剤と期待されたが……起爆剤より自爆剤（民宿経営者）
入場者 目標450万 実際349万 大型ホテルの建設
物価上昇、環境破壊（陸地からの泥土の流出 サンゴ礁被害）
本土資本の土地買い占め → 沖縄美ら海水族館の建設（沖縄の努力）

沖縄の自立をめぐる 同化と異化

「本土並み」という語

- 大城立裕「いまだに続く「琉球処分」—同化と異化のはざま」

西銘順治元知事は「沖縄の心とは、の問いに『やまとうんちゅになりたくてもなりきれない心』と述べた。潜在的にはそう思っている人たちが当時たくさんいたと思う。

同化（日本に同化する） 屋良朝苗元琉球政府首席「本土並み」

- 95年の米兵による少女乱暴事件 大田昌秀元知事の県民大会開催 96年県民投票実施 基地の整理縮小や日米地位協定改定を求めた県民投票は約9割が賛成 → 異化（沖縄独自の歩み）
- 翁長雄志元知事 イデオロギーよりアイデンティティ

琉球処分

1879年3月27日 「沖縄県」の設置(「琉球処分」)

- ・ 日本政府の命で内務大書記官の松田道之
警官160名、熊本鎮台分遣隊400人と首里城へ
「廃藩置県」 琉球藩の廃止 沖縄県の設置命令
 - ・ 尚泰の東京居住、琉球の土地人民と書類引渡し、首里城明渡し
同年4月4日布告第14号「琉球藩ヲ廃シ沖縄縣ヲ置ク」
 - ・ 15世紀初めから450年余続いた統一国家、琉球王国の終焉
- * 日本政府は1872(明治5)年に琉球国を廃して琉球藩とした
「琉球処分」は琉球藩から沖縄県設置までの一連の措置



写真上・首里城歓会門前に並ぶ明治政府軍の兵士＝PD-Japan-oldphoto／Wikimedia Commons
写真下・尚泰(国際子ども図書館HP 画像出典:東恩納寛惇『尚泰侯実録』櫛引成太 1924)

文化・芸能の「異化」

県民の精神的成長から自立への道の典型

スポーツから始まった県民の自負

1968年 沖縄水産高校 甲子園大会ベスト4

1976年 具志堅用高 WBA世界ジュニアフライ級
チャンピオン(以後、1980年まで13度防衛)

1980年「沖縄文化史のターニングポイント」(大城立裕)

ウチナーグチでお笑いの舞台「笑築過激団」(1980年)

歌手の喜納昌吉「ハイサイおじさん」(1976年シングル盤)

「花～すべての人の心に花を～」(1980年)

照屋林賢(りんけんバンド、1976年結成)の活躍

安室奈美恵 「ちゅらさん」 沖縄の人々の自信

1990年代 安室奈美恵

- 沖縄県出身。O型。沖縄アクターズスクール発の5人組グループ・スーパーモンキーズを経てソロアーティスト。
- 以降、「CAN YOU CELEBRATE?」「Don't wanna cry」「Chase the Chance」「NEVER END」などのヒット曲を多数リリース。1990年代には、ファッションやメイクを真似る“アムラー”が社会現象に。
- **ビギン** 石垣島出身 1990年『恋しくて』でデビュー。

代表曲の「島人ぬ宝」、「涙そうそう」、「笑顔のまんま」など

2000年代 連続テレビドラマ「ちゅらさん」ブーム→ 沖縄の人々の自信

2001年 夏川りみ 涙そうそう カバーヒット

沖縄差別は今も 「人類館」事件

1903年、大阪で開催された「第5回内国勧業博覧会」。日本政府が林業館、工業館など12のパビリオンを出展し、会場の正門前には動物園や世界一周館などの民間のパビリオンが並んだ。その一つが大阪の有志によって企画された「**学術人類館**」。



大琉球写真帖／目録番号1519／写真番号79／第5回内国勧業博覧会の外に見せ物小屋を作って、人物を見せ物にしていた。いわゆる「人類館」／(1903) 那覇市歴史博物館蔵

日本初の人類学者と言われる東京帝国大学人類学教室教授、坪井正五郎の協力のもと、**人類学研究**という名目で「内地に最近の異人種即ち北海道アイヌ、台湾の生蕃、琉球、朝鮮、支那、印度、爪哇(ジャワ)、等の七種の土人」、つまり日本本土周辺に住むアイヌ民族、台湾の先住民、そして琉球(沖縄)、朝鮮、中国、インド、インドネシア(ジャワ島)から呼び寄せた生身の人間を、**見世物**として「展示」しようというものだった。(阿部藹琉球大学客員研究員)

○「喜劇 人類館」～笑って哭いて、沖縄の深淵を覗き見る(阿部藹)

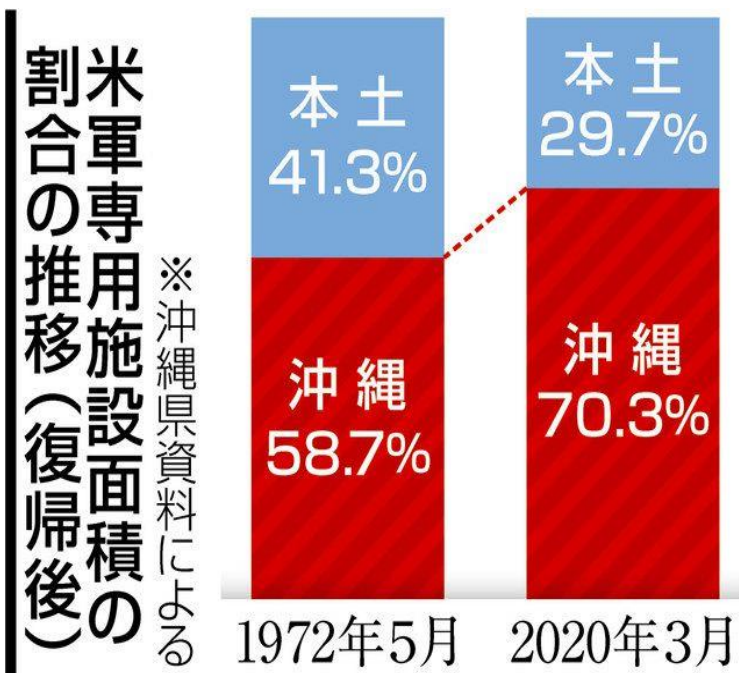


作者は沖縄市出身の劇作家・知念正真(ちねんせいしん・1941-2013)。1976年に初めて上演され、1978年には第22回岸田國士戯曲賞を受賞している。

2016年10月19日 県警警備部によると、不適切な発言をしたのは大阪府警の20代男性機動隊員。動画の確認や本人、当時現場にいた他の隊員への聞き取りで事実関係が確認された。隊員は抗議をする市民に対し「どこつかんどるんじゃ、ぼけ、**土人**が」などと発言していた。(琉球新報電子版)

沖縄の現実 格差の拡大と貧困の増大

- ・ 復帰50年、減らぬ基地負担 経済格差も深刻、本土と深まる溝



中日新聞 2022年5月16日

「県民は過重な基地負担を強いられ続けている」。玉城デニー知事は十五日の記念式典で、変わらぬ沖縄の現状を訴えた。隣席の岸田文雄首相と目を合わせることはなく、硬い表情のまま。会場の外では基地負担に抗議する市民らが声を上げ、祝賀ムードとはかけ離れた一日となった。

沖縄の貧困を示す指標

指標	沖縄県	全国	全国との比較
子どもの貧困率	29.9%	13.5%	2倍
離婚率 (人口1000人あたり)	2.52件	1.69件	1位
母子世帯出現率	4.9%	2.5%	2倍
大学等進学率	40.8%	55.8%	最下位
非正規雇用率	43.1%	38.2%	1位
1人当たり所得	239万1000円	319万8000円	最下位

※沖縄県の集計に基づく。調査年は指標によって異なる。全国の1人当たり所得は1人当たり国民所得

2 2022年の選挙イヤーを振り返って

沖縄県知事選

下地幹郎	53,677	
佐喜真淳	274,844	自民、公明
【当】玉城デニー	339,767	立憲、共産、れいわ、社民、社大、にぬふあぶし

- 玉城氏は宜野湾市、名護市、国頭村、東村など基地問題が関わっている地域で敗北

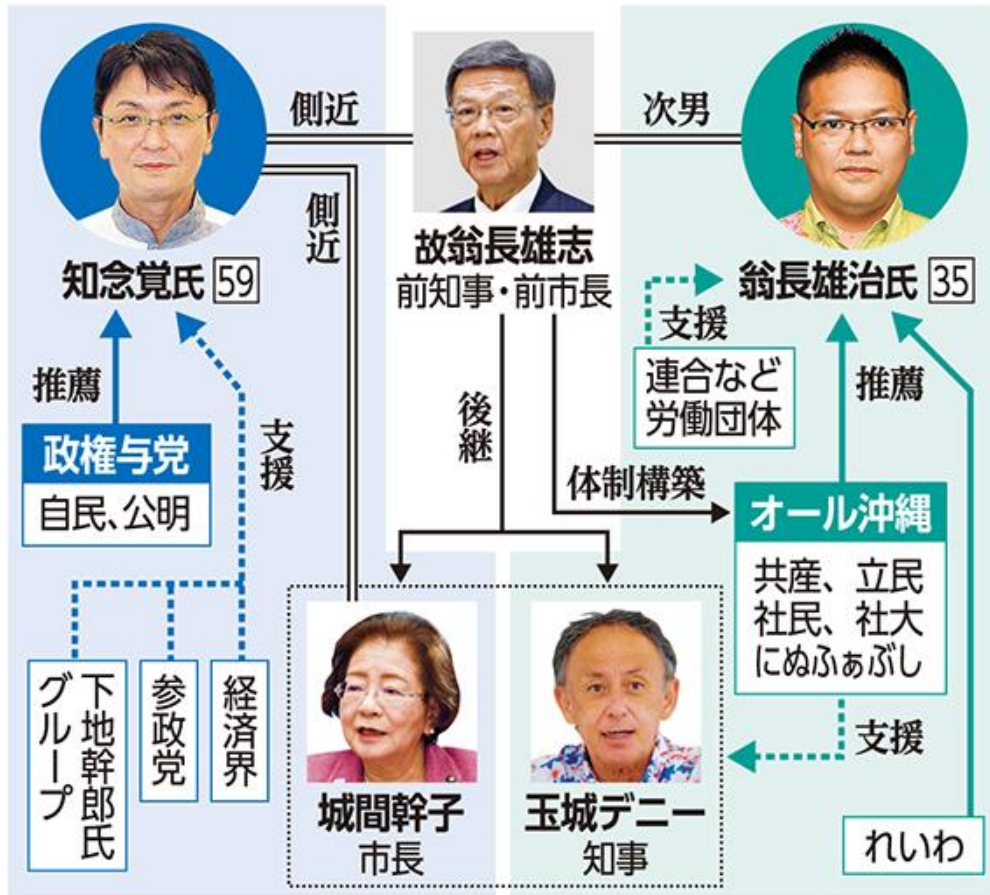
那覇市長選

翁長雄治	54,125	立憲、共産、れいわ、社民、社大、にぬふあぶし
【当】知念覚	64,165	自民、公明

(参考) 県知事選の那覇市得票 下地 15,775 佐喜真 47,925 計 63,700
玉城 72,688

辺野古新基地建設で分断される民意

那覇市長選の構図

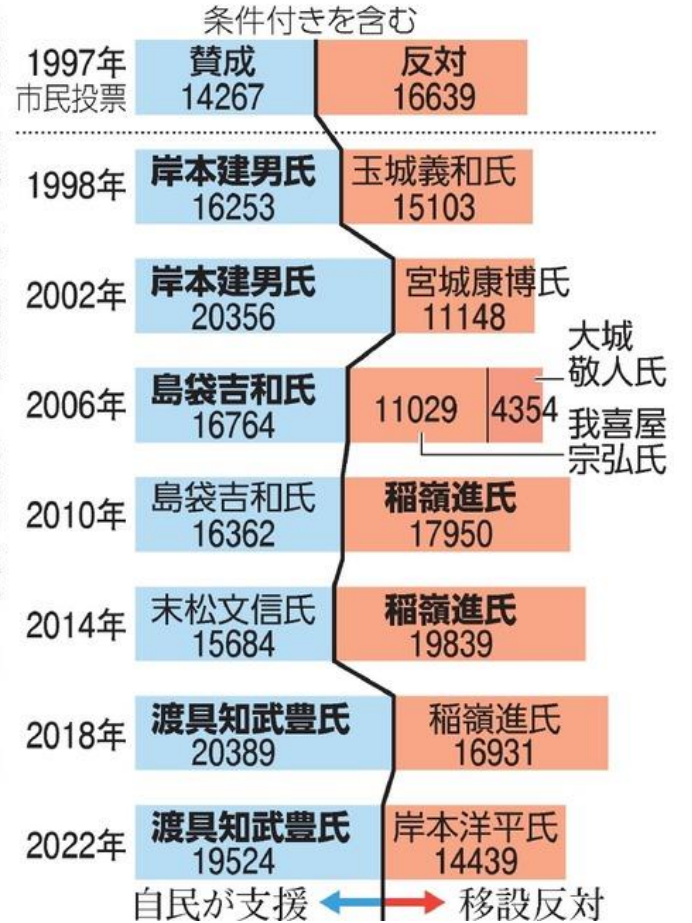


【分析】ほぼ唯一の争点 辺野古新基地建設

反対を貫く翁長氏（大義を守る）と「国と県の交渉を見守る」公約を掲げた知念氏

名護市長選 生活重視と基地再編交付金 背景は貧困問題 名護市 30億円 辺野古・豊原・久志区 直接3000万円

名護市長選の主な候補者と得票の推移 太字は当選者



3 南西諸島で進む軍事要塞化と住民被害



(左) 沖縄がアジアの中心になる日: アジアに開く 沖縄IT産業の未来
- ITmedia エンタープライズHP (右) 沖縄県HP

EABO (Expeditionary Advanced Base Operations)

敵の海洋進出を抑止・阻止するため、海兵隊が、分散された少規模の部隊で、戦略的に重要な海上の拠点を制圧し、対艦・対空ミサイルやセンサーの配備や戦闘機の給油地点の構築などによって、味方の制海権確立や敵の海上進出の阻止のための一時的な拠点にする構想。(第2回米軍基地問題に関する万国津梁会議 議事概要、2019年8月、沖縄県)



(注)米国防総省の資料などから作成

第1列島線と「島しょ要塞」図

(右)第1列島線中国が勢力圏を確保するため、海洋上に独自に設定した軍事的防衛ラインの一つ。九州沖から沖縄、台湾、フィリピンを結び南シナ海に至る。中国が台湾有事を想定し、米軍の侵入を防ぐ自国防衛の最低ラインとしている。

日本経済新聞2022年7月28日

(左) 2019年2月に米国海軍協会の月刊誌に掲載された「島しょ要塞」と題する資料の図(日本共産党こくた恵二衆議院議員HP)



日米一体で「敵基地攻撃能力」を強化

布施祐仁『日米同盟・最後のリスク』創元社、2022年5月
北朝鮮・中国本土も攻撃可能な射程距離を有するミサイルの
開発



- 米国** 30年ぶりの中距離巡行ミサイル発射実験 2019年8月19日
冷戦末期 1987年 ソ連と中距離核戦力(INF)全廃条約締結
- 中国** 地上発射型中距離ミサイルの開発、大量配備1000発以上
- 米国** ミサイル・ギャップを埋めるためアジアに配備
(米国からは届かないため)
日本が最有力、2023年より配備
日本の南西諸島から台湾・フィリピン群島の第一列島線

日本が核戦争の戦場になる「悪夢」が現実

ヨーロッパ 抑止力ではだめ → 反核運動 → INF全廃条約

米ソ間の核戦争 大陸間弾道ミサイル(ICBM)や潜水艦発射弾道ミサイル(SLBM)で核攻撃し合うケースが想定されたが、これは困難(抑止力)。

中距離ミサイルの撃ち合いでは欧州が戦場となり、米ソともに国土が傷つかないので抑止力が働かないことが想定され、核戦争を懸念した市民が立ち上がり、反核運動が起こり、**INF全廃条約**(米国レーガンとソ連ゴルバチョフ、1987)が締結された。

実際 ロシアはウクライナに開戦から1か月で1000発以上のミサイルを撃ち込んだ。

「米中が戦争になったとしても、沖縄に火の粉が飛んでくることはあっても、日本本土まで戦場になることはないだろう」という意見

米国 中距離ミサイル配備の計画 沖縄だけでなく日本本土

「さすがに核戦争なんて起こらないだろう」という意見

沖縄 かつて米軍の中距離ミサイルが配備され、中国に向けて核ミサイルが発射される寸前の段階までに至ったことがあった。現中国政府はその事実をよく知っている。

核使用の結果、沖縄が消えても 1958年の台湾海峡危機で

第2次台湾海峡危機 米国 中国本土への核攻撃を検討 (琉球新報2019年4月24日付)

- 米紙ニューヨーク・タイムズ(電子版)4月22日
- 中国が台湾・金門島に砲撃を加えた1958年の第2次台湾海峡危機の際、当時の米軍や米政府内で検討された中国本土への核攻撃に関する議論の詳細を掲載した。元国防総省職員で戦略研究家のダニエル・エルズバーグ氏(90)が入手した機密文書に基づき、「台湾をめぐる核戦争のリスクは、これまで知られているのより大きかった」と伝えている。

第2次台湾海峡危機 米国 核使用の結果 沖縄が消えても (朝日新聞5月30日)

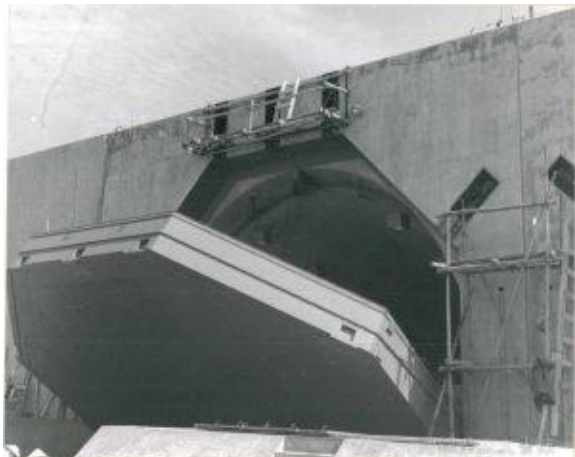
- 当時の統合参謀本部議長 「中国が限定的な核弾頭投下でも引かなければ、北は上海に至るまで深く核攻撃を行う以外に選択肢はない。……米側は核兵器の先制使用の結果、台湾や沖縄が消え去っても受け入れるつもりでいた」

米軍「核ミサイルメースB基地」跡 恩納村

- かつて「核ミサイル」が配備されていた(広島テレビ)【2023年5月31日放送】



沖縄本島には8基の発射口を備えたメースBの基地が4か所作られた。住民も核ミサイル基地と知らずに建設に動員された。密かに持ち込まれた核弾頭はおよそ1300発。当時の沖縄はアジア最大の核基地。



沖縄県公文書館「米国
収集資料」

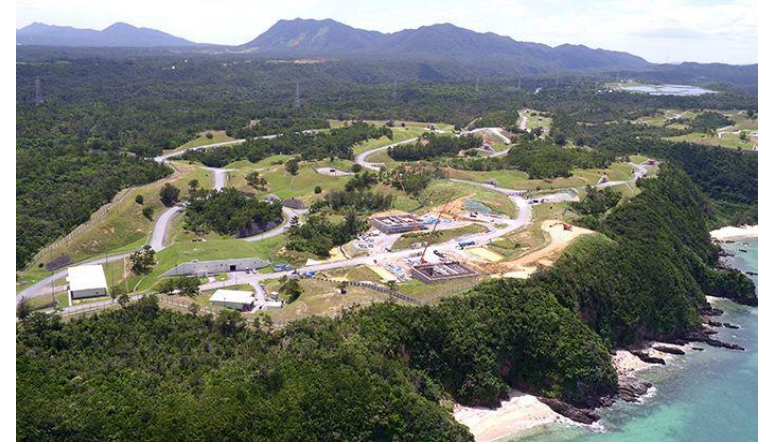


かつての米軍「核ミサイルメースB基地」跡 恩納村
現在、創価学会沖縄研修道場(NHKスペシャル「ス
クープドキュメント 沖縄と核」2017年9月)

米海兵隊辺野古弾薬庫

1969年 沖縄核密約 琉球新報「辺野古弾薬庫」（資料写真。
2019年、小型無人機で撮影）

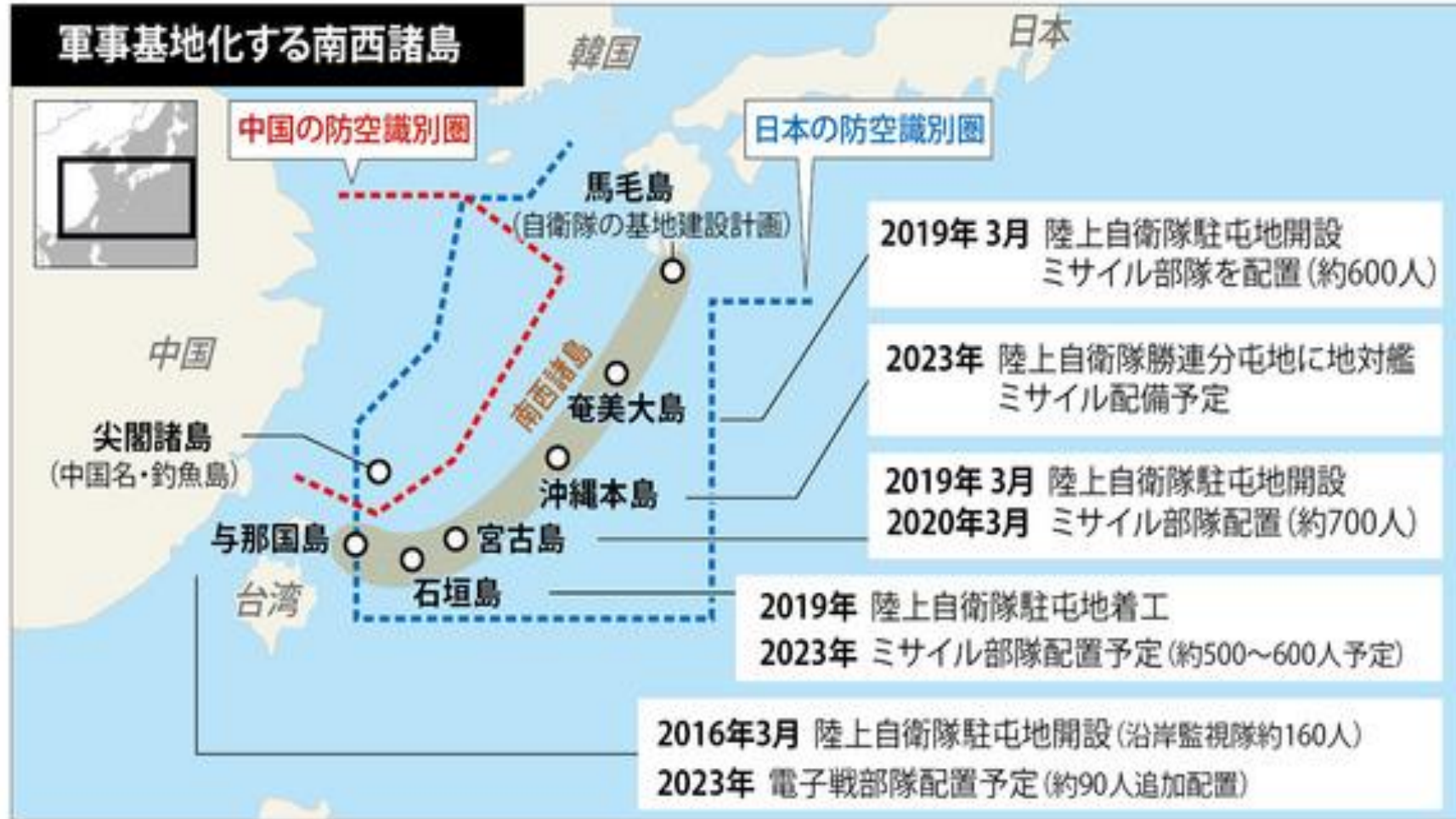
米国政府は、核兵器の沖縄への再持ち込みと、沖縄を通過させる権利を必要とする。沖縄に現存する核兵器貯蔵地である、嘉手納、那覇、辺野古並びにナイキ・ハーキュリーズ基地を使用できる状態に維持しておき、極めて重大な緊急事態が生じた時には活用できるように求める。



日本負担24億円で米軍辺野古弾薬庫建て替え 「米軍再編」と説明も機能強化の恐れ
(琉球新報2019年4月24日付)

- 防衛省 あくまで建て替えで新たな機能が強化されることはないと強調。
- 米海兵隊 14年、普天間飛行場の辺野古移設で「新たな任務に対応」。
- 1972年の沖縄の日本復帰前、県内の弾薬庫には核兵器が貯蔵されていた。日米による沖縄返還交渉の過程では、沖縄の核再持ち込みを認める密約が結ばれた。

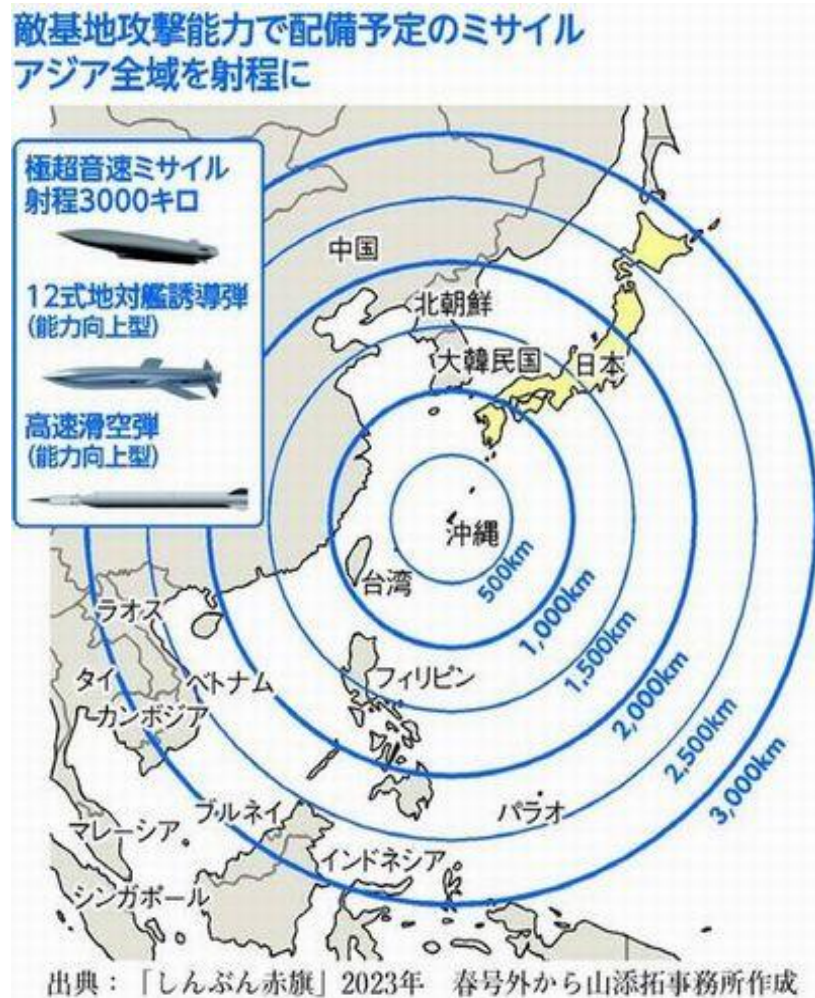
日米韓の軍事同盟への危険を韓国でも告発



軍事基地化する南西諸島(ハンギョレ新聞社記事資料)

ハンギョレ新聞社 1987年6月の民主化闘争を機に民族、民主、民生の三大創刊精神で創刊された日刊紙。権力と資本からの独立を掲げ、多数の国民が株主。韓国国内でKBS、朝鮮日報など他より信頼されているメディア。

南西諸島の軍事化 これまでと現状(1)



①与那国島

陸自沿岸監視隊・情報保全隊200人
電子戦部隊23年度末追加配備。
地对空ミサイル配備計画。

②奄美大島

陸上自衛隊駐屯地・分屯地600人
地对艦・地对空ミサイル部隊など
21年の「オリエント・シールド」で陸自・米軍
共同訓練(21年6月)
米軍地对空ミサイルPAC3訓練

南西諸島の軍事化 これまでと現状(2)

③宮古島

19年陸自駐屯地開設800人。
地对艦・地对空ミサイル部隊などを
配備して、ミサイルも搬入。
保管庫と偽り弾薬庫建設(保良訓練場)。

(写真右)保良弾薬庫が供用開始
4月1日から供用開始となった保良
訓練場=1日、城辺保良(宮古毎日
新聞2021年4月2日電子版)

(写真左)東京新聞WEB版 2019年
10月8日 命奪った弾薬庫、なぜ再
び 宮古島駐屯地で着工。200メ
ートル圏には住宅。



南西諸島の軍事化 これまでと現状(3)

④石垣島

3月中旬駐屯地開設、600人
地対艦・地対空ミサイル部隊など

• 石垣島の自衛隊基地建設現場の

周辺4地域も公民館単位で反対を表明。

- ここは特に戦後、沖縄本島や台湾からも集団で入植し開拓してきた地域。マラリア有病地帯としてめったに人も住まない場所だったのを、戦後の開拓団の苦労によってジャングルを切り開き豊かな農地に変えていった地域であり、そこに水質汚染などをもたらす自衛隊基地がつけられた。



石垣島で自衛隊配備に反対する集会（NHK沖縄ニュース）



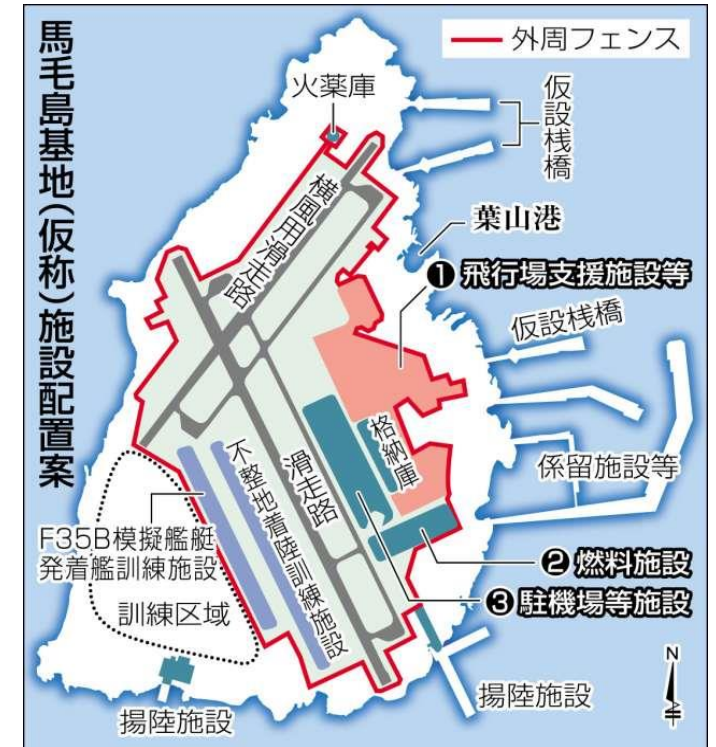
南西諸島の軍事化 これまでと現状(4)

⑤馬毛島

- 23年1月米軍F35Bなど空母艦載機着陸訓練のための自衛隊馬毛基地の建設着工。

⑥那覇・金武

- 南西航空方面隊が那覇基地に司令部を置き、戦闘機の部隊、レーダー警戒部隊、地对空ミサイルの部隊などに編成され、対領空侵犯措置などの防空任務。
- 1個飛行隊から2個飛行隊で編成された空自第9航空団が軍官民共用基地(那覇空港)で訓練強化。
- 水陸機動団(2018年創設、日本版海兵隊)が在沖海兵隊と金武町ブルービーチ訓練場で秘密上陸、強襲上陸作戦の共同訓練。2月には日米共同訓練「アイアン・フィスト23」をキャンプ・ハンセンで実施。



南日本新聞23年1月12日

南西諸島の軍事化 これまでと現状(5)

⑦勝連半島

23年度中に陸自勝連分屯地に地对艦ミサイル配備計画。

* 水陸機動団は現在米海兵隊が使用しているのと同じ水陸両用装甲車AAV7をすでに53輛購入して配備している。

(水陸起動団HP 防衛大綱における水陸機動団の役割平成31年度以降に係る防衛計画の大綱」より)



自衛隊基地 復帰から50年間の推移

年代	施設数	面積(ha)	主な返還施設
1972	3	166.1	那覇駐屯地 沖縄基地 など
1973	18	193.1	米軍基地の返還地を 自衛隊が継続使用
1974	25	339.5	
1975	26	358.7	
1983	32	593	米軍基地返還で228haを引き継ぐ
2013	39	666.2	南西シフトの方針打ち出され 離島への自衛隊配備が進む
2020	47	773.3	
2021	55	779.8	

※ 県統計資料集をもとに作成

米軍基地 復帰から50年間の推移

年代	施設数	面積(ha)	主な返還施設
1972	87	28,660	
1975	61	27,047	恩納サイト キャンプ ハーディ など
1992	45	25,011	北部訓練場の一部 など
1998	39	24,283	国頭村安波訓練場 など
2006	37	23,667	楚辺通信所 読谷補助飛行場 など
2007	34	23,300	嘉手納飛行場の一部 など
2016	32	22,988	北部訓練場の半分近く
2021	33	18,697	

※ 県統計資料集をもとに作成

自衛隊と米軍基地の推移

自衛隊員数 2022年 8200人
今後ますます増加

復帰50の物語 第45話 基地のない平和な島
沖縄 残された50年目の宿題
琉球朝日放送 報道制作局 2022年11月24日
CATCHY

復帰当時と現在の比較 米軍基地

復帰50の物語
基地のない平和な島、を目指して
居座る基地 残された50年分の宿題

	1972年		2021年
施設数	87	➡ マイナス54	33
面積 (県土に占める割合)	28,660ha (12.8%)	➡ マイナス1万ha	18,697ha (8.1%)
人数	軍人・軍属 42,000人	➡ 微増	47,300人 ※2011年時点
	駐留軍 労働者 19,980人	➡ 激減	8,866人

※ 県統計資料集をもとに作成

沖縄と東アジアの交流 与那国

- 与那国と台湾・花蓮市
- 台湾・花蓮市と与那国町姉妹都市宣言41年
- 子どもたちのホームステイと交流学習
2010年から中学生、翌年からは小学生も交流学習



与那国町立比川小学校

- 『2005 与那国・自立へのビジョン』
 - 一 私たちは、安心・安全な島づくりと生きがいのある生きがいのある豊かな暮らしの実現に向けて、いかなる困難があろうとも、「どうなんちま」に根を張る「どうなんとう」として、「まるんな」(一丸)となって立ち向かい、これを次代に継承することを誓う。
 - 一 私たちは、すでに友好関係を深めている花蓮市をはじめとする台湾など、近隣・東アジア地域と一層の友好・交流を推進するとともに、相互発展の道を築き、国際社会の模範となる地域間交流特別区の実現に向け努力することを誓う。

与那国 全島民“避難”

島の暮らしに自衛隊と米軍が前面に

- 機動戦闘車が走る日米共同演習
- 子たちを動員したミサイル避難訓練
- ミサイル新基地計画、防衛大臣命令による迎撃ミサイル配備
- 生物多様性の高い湿地帯を根こそぎ崩す港湾計画
- 自衛隊の空港・港湾利用常態化

有事前の島外避難—アジア太平洋戦争の硫黄島の教訓

- 基地誘致に“同意”した島民の間にも深い動揺
- 高校がない、医療も厳しい、物価も高い、そんな島からまだ出て行かないのかと追い立てられているかのよう
- 硫黄島 今も帰島が許されない日米の軍事基地



地図「政府は沖縄を再び戦場にするのか？」自衛隊配備の現場に行く・与那国島編
取材・文・撮影／大袈裟太郎
集英社新書プラス

山田和幸「与那国と東アジアの交流」(琉球新報2023年5月19日)より整理して引用

住民の被害 (1)爆音被害

米軍基地からの被害放置、国の責任を問う

嘉手納・普天間爆音訴訟、那覇地裁で

初弁論 2022年11月30日 琉球新報

- 原告 北谷町、嘉手納町、うるま市、沖縄市、読谷村、宜野湾市、北中城村の7市町村の30人。(うるささ指数71W値以上の区域)
- ① 米軍機の飛行差し止めを米国に求めよ。
- ② 日本の航空法に基づいて米軍機を管制せよ。
- ③ 違法な爆音にさらされない権利を確認せよ。



第1回口頭弁論のため那覇地裁に向かう嘉手納・普天間行政訴訟の原告団ら
=30日午後1時52分

*うるささ指数71W値以上
かなりうるさく我慢できない程度

異なる基地住民の連携訴訟 全国初

弁護団 訴訟の意義

- 米軍機の騒音被害を巡って異なる基地の周辺住民が一緒に訴訟を起こすのは、全国初。国側は争う姿勢。
- 米軍機の飛行差し止めなどを求める「第4次嘉手納爆音訴訟」と「第3次普天間爆音訴訟」が連携して起こした。

これまでの爆音訴訟の判決

- 爆音の違法性を認める一方
- 飛行差し止めについては、米軍施設の運用は日本の法の支配が及ばないとした「第三者行為論」によって退けている。

嘉手納・普天間の爆音訴訟の経過

1982年2月～98年6月	嘉手納基地周辺住民が、米軍機の飛行差し止めなどを国に求めた第1次嘉手納爆音訴訟。追加提訴などを含め、原告は約900人
96年4月	日米両政府が普天間飛行場の返還に合意
2000年3月～11年1月	第2次嘉手納爆音訴訟。原告は約5500人
02年10月～11年10月	普天間飛行場の周辺住民が、米軍機の飛行差し止めと損害賠償を国に求めた第1次普天間爆音訴訟。原告は約400人
11年4月～21年3月	第3次嘉手納爆音訴訟。原告は約2万2千人
12年3月～20年7月	第2次普天間爆音訴訟。原告は約3400人
20年12月～	第3次普天間爆音訴訟を提起。原告は約5800人
22年1月～	第4次嘉手納爆音訴訟を提起。原告は約3万5千人

※いずれも騒音の違法性を認め損害賠償を命じるも、飛行差し止めは認めず

フッ素化合物(PFAS)汚染

PFAS、32地点で国の指針を超える

- 米軍基地周辺、嘉手納で最高42倍
- 沖縄県環境部の残留実態調査の22年度夏季結果 2022年12月2日 琉球新報

- 調査46地点のうち32地点で、国の暫定指針値(1㊦当たりPFAS・PFOAの合計50ナノグラム)を超える値の検出。
- 最も高かったのは嘉手納基地周辺の屋良ヒージャーガーの2100ナノグラムで、暫定指針値の42倍となった。超過地点のほとんどは基地の下流にある。
- 「県は国、米軍に浄化を求め続けているが、汚染源を特定するために基地立ち入り調査を早期に実施しないといけない」と強調。

PFASとは4730種を超える有機フッ素化合物の総称。「PFOS」「PFOA」は水や油をはじき、熱に対し安定的な特性。消火剤、コーティング剤などに使用。人への有害性が指摘され、国際条約で製造・使用・輸入禁止。

辺野古新基地建設

辺野古抗告 県の上告棄却

裁決違法性判断せず／埋め立て承認撤回 敗訴が確定

2022年12月09日 琉球新報

- 県による埋め立て承認撤回を取り消した国土交通相の裁決は違法
- 県が裁決取り消しを求めた抗告訴訟の上告審判決
- 最高裁第1小法廷 県の上告を棄却
- 玉城デニー知事

「非常に残念であり、到底納得できない。地方自治の観点からも問題がある」

闘いの意義 勝つ方法はあきらめないこと(訴訟のたびに工事が止まる)

平和への権利宣言と沖縄

平和への権利宣言の誕生

- 2016年7月1日、平和への権利宣言がキューバ政府の提案により、国連人権理事会で正式に採択され、国連総会に提出された。これには、世界中のNGOが驚かされた。
- 同年11月、国連総会31会期において平和への権利は国際宣言として採択された。

【対談】おきなわ住民自治研究所設立記念対談

- 真栄里泰山おきなわ住民自治研究所理事長（沖縄大学客員教授）と宮本憲一元自治体問題研究所理事長（大阪市立大学名誉教授、滋賀大学元学長）との対談 月刊『住民と自治』2018年2月号

沖縄に憲法を、地方自治を

- **真栄里** 「平和の礎」にはアメリカの兵士も日本の兵士も沖縄の住民、さらには徴兵徴用された韓国・朝鮮の方々も刻銘されています。
- **宮本** アジアで平和を作り出す場合に、アジアと正当な文化的・経済的交流をする基地として沖縄の位置を置いてもらい、アジアの平和と安全と経済交流の基地にする。

平和の礎

- 2022年6月23日現在 241,686名（沖縄県発表）
- 内訳 沖縄県 149,611名、県外 77,485名、米国 14,010名、英国 82名、台湾 34名、大韓民国 382名、朝鮮民主主義人民共和国 82名
- 「いしじ」…琉球方言で「いしずえ」（基礎）のこと

「平和の礎」の背景

長崎に原爆を投下した飛行機

【読谷】1945年8月9日昼ごろ、読谷村内の飛行場に照明弾を発射しながら近づく米軍機があった。滑走路に緊急着陸し、所定の位置から大きく離れた地点でかろうじて停止したのはB29爆撃機「ボックスカー」。数時間前、長崎に原子爆弾「ファットマン」を投下して、一瞬にして7万ともいわれる市民の命を奪った機体の飛来だった。（琉球新報2018年8月9日）

沖縄の米軍基地から本土空襲

太平洋戦争末期、沖縄に進攻した米軍は、各地を占領後すぐに滑走路を建設し、日本本土への大規模爆撃を開始。出撃したコルセア等の戦闘機は、鹿児島・出水(いずみ)・熊本・久留米・奄美諸島で、一般民間人を標的にした無差別攻撃をおこなった。（林博史『沖縄からの本土爆撃 468米軍出撃基地の誕生』吉川弘文館、2018年）

沖縄を平和の緩衝地帯に 翁長前知事

翁長雄志前知事の「平和の緩衝地帯」構想

2015年5月20日 翁長雄志・沖縄県知事記者会見

4月 李克強総理と会談、沖縄のアジア経済戦略構想示す

北京訪問 戦後40数年間、日中友好貿易交渉を続けた河野洋平氏に同行

福州との歴史的な縁を李総理に伝え、福州と沖縄の直行便、定期便を実現

- 「これからのアジアの生き方、そして沖縄が将来、平和の緩衝地帯として頑張っていくと、そういったものもいい形で組み合わせができるように頑張っていきたい」

沖縄を平和の緩衝地帯に 玉城知事

玉城デニー知事の「平和の緩衝地帯」構想と独自外交

- 沖縄県 2023年4月から知事公室特命推進課内に「**地域外交室**」(3人体制)を設置。
- 県幹部「平和の緩衝地帯として沖縄の力を発揮させたい」。将来的には局へ格上げ。
- 22年に玉城知事が**グアム、ハワイ知事と会談**、23年3月8日から訪米(3回目)
- 国務省のジョエル・エレンライク日本部長、国防総省のグレース・パーク日本部長代行
- ジョージ・ワシントン大学のマイク・モチヅキ准教授ら5人の有識者グループと面談
- 共和党の上院議員、民主党の下院議員ら連邦議会議員と、上級補佐官、
- 「沖縄をアジアの平和のための緩衝地帯(バッファゾーン)にしたい。その実現に向け、沖縄で**アジアの女性リーダーやファーストレディーが集まるサミット**を開催したい」
- **沖縄でASEAN首脳会議**を開催する意向を表明。


4 交流の島沖縄

上里賢一氏の東恩納寛惇賞受賞記念講演「琉球漢詩文探訪—資料と人との出会いを求めて」

琉球新報社、2018

- 琉球王国時代、琉球漢詩は、日本、中国、朝鮮、安南等の地域と密接な関係があり、琉球詩人が各地域を訪れて創作したり、詩人との交流を深めていたりしたという。
- 14世紀末以降、中国を中心とする冊封体制という東アジアの世界秩序が形成されており、琉球から中国へは当時25人の官正（中国への留学生）が派遣されている。これらの交流をとおして、「琉球の学問的気風を高め、大いに刺激した」

一般社団法人 久米崇聖会 記念シンポジウム




久米三十六姓来琉630周年記念シンポジウム
「歴史を耕し、未来を拓く」
首里王府と久米村

主催：一般社団法人久米崇聖会
日時：令和5年3月18日(土)
13時(受付・開場)
会場：沖縄県立博物館・美術館(3F 講堂)

I部 講演(13:20~15:40)
基調講演：赤嶺 守氏(名桜大学大学院教授)
講演：田名真之氏(沖縄県立博物館・美術館館長)
渡辺美季氏(東京大学大学院准教授)
前田舟子氏(沖縄大学准教授)
上里賢一氏(琉球大学名誉教授)

①久米村の歴史的地位とその変遷——赤嶺 守氏(40分)
②琉球家譜と久米村——田名真之氏(25分)
③江戸参府と久米村人——渡辺美季氏(25分)
④官生派遣と久米村——前田舟子氏(25分)
⑤琉球儒学と久米村の教育——上里賢一氏(25分)
休憩 15:40~15:50(10分)

II部 講演者とのパネルディスカッション
15:50~16:40(50分)
質疑応答(事前配布した質問票にて)
閉会 16:45



久米孔子廟

※お申込開始日/令和5年3月3日
電話受付、定員に達し次第閉切とします。(参加費無料)

主催：一般社団法人 久米崇聖会 後援：沖縄県立博物館・美術館
沖縄県教育委員会
那覇市

お問い合わせ・申し込み：098-988-0907(予約・受付はお電話にて)

東アジア 漢詩文で繋がる一大文化圏

- 程順則、蔡温、蔡大鼎などの漢詩人が活躍(中国留学)
- 程順則、玉城朝薫(組踊の創始者)とともに1714年の江戸立ちに参加し、新井白石と交流
- 程順則編の『中山詩文集』(1725、琉球最初の漢詩文集)の刊行



組踊「執心鐘入」の一場面(国立劇場おきなわ)

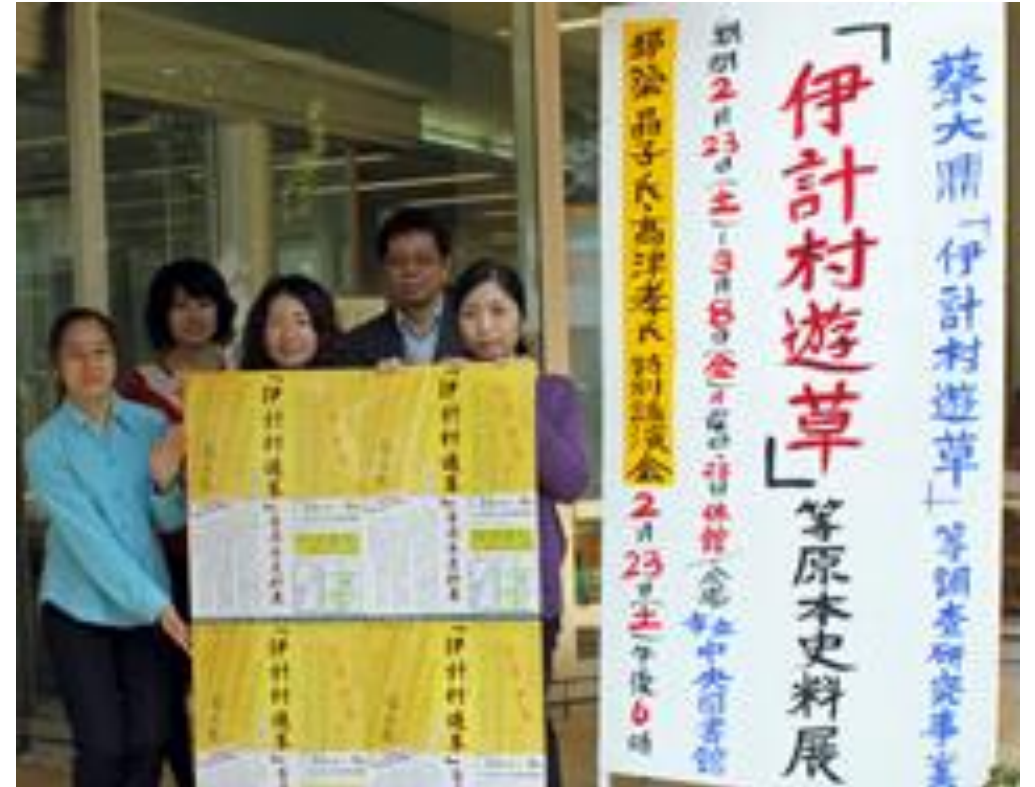
久米村の詩人を中心にして、文章と詩を集めて編んだもの。編集者である程順則の作品が大半。『皇清詩選』(1705年、中国)に琉球詩人の作品が70首近く収録。その多くが『中山詩文集』と重なる。

ベトナム資料

初五日、琉球國二人、一林世忠、一林世功、就館求見、(以下略) (范魚堂北植日記)

琉球漢詩文が一般市民レベルの学習材

- パンフレット『「伊計村遊草」漢詩書道展 蔡大鼎(伊計親雲上)が見たうるまの風景』の刊行
- うるま市の書道愛好家たちが「伊計村遊草」漢詩書道展に出展して、その書を収めた。出展者は専門の書家ではなく、一般の市民である。
- 琉球大学 書道の講師 幸喜洋人先生 福建省の15、6代末裔 約600年前に那覇市久米村に来沖
- 年に一度世界中の幸喜氏族が福州に墓参り



中国福建省と沖縄の深い絆

沖縄県と福建省の友好県省締結20周年

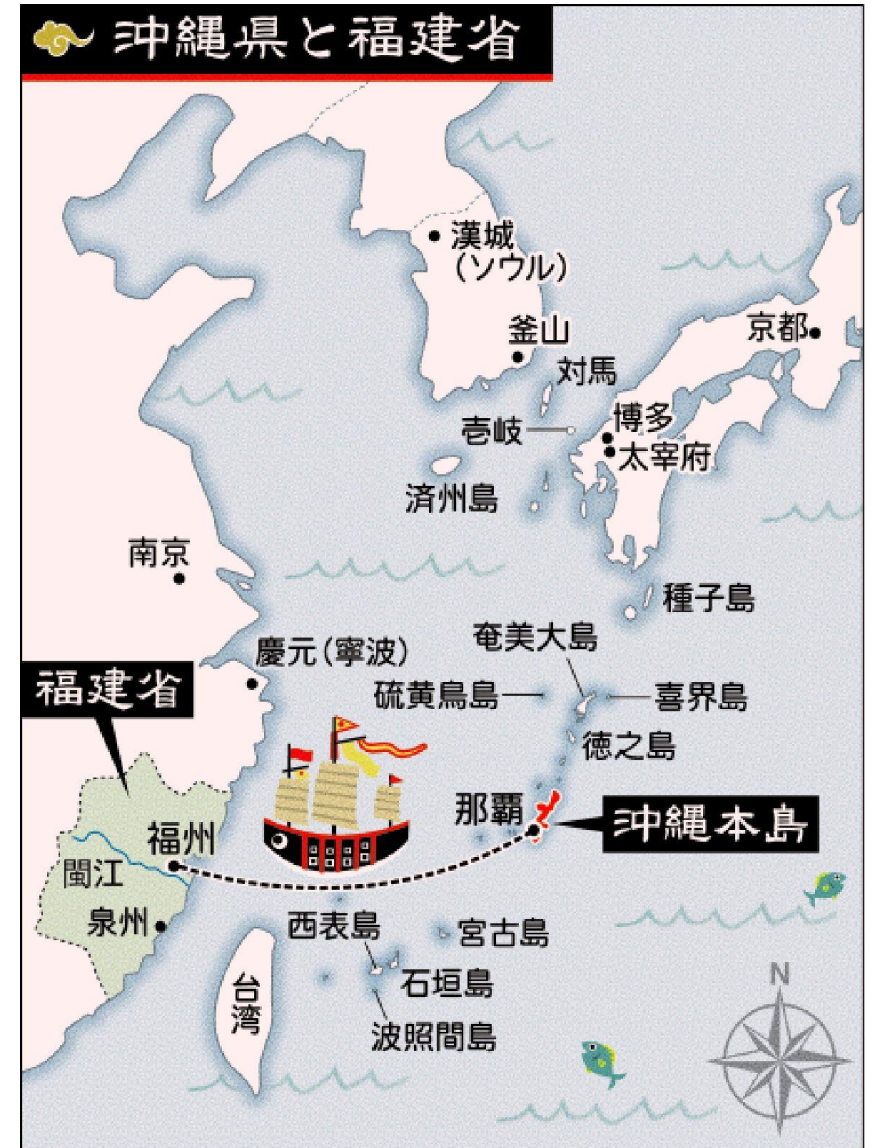
友好発展 福建省と確認／締結20周年県訪問団 芸能交流深める

沖縄タイムス 2017年11月12日

中国福建省との友好県省締結20周年で中国を訪れている県訪問団(団長・翁長雄志知事)は11日、福州市の福建大劇院で合同芸能公演「文化の夕べ」に参加した。互いの芸能を披露し、交流を深めた。

福建省の琉球館

琉球国の出先機関・琉球専用の滞在施設



隴月即事（蔡大鼎『閩山遊草』より）

泊舟浦口經三月

更覺江春入舊年

坐對寒燈愁不寐

鷄聲唱徹五更天

舟を浦口（ほこう）に泊めて三月を経たり

更に覚ゆ江春旧年に入るを

坐（そぞ）ろに寒灯に対すれば愁いに寝れず

鷄声唄い徹す五更の天

* 隴月 旧暦の十二月。

* 浦口 慶良間阿護の浦。大鼎ら進貢使節一行は一八六〇年十一月十七日に那覇港を出てから翌年の一月十六日に阿護の浦を出発するまで長い風待ちをした。

* 江春入舊年 唐の詩人王湾 晦日 残夜に生じ／江春旧年に入る」による。

* 寒灯 唐の詩人高適 旅館の寒灯に独り眠らず」による。

* 五更 今の午前五時ごろ。

（上里賢一選訳・茅原南龍書『琉球漢詩の旅』）

5年に一度の世界ウチナンチュ大会

- 琉球新報 2022年10月31日

第7回世界のウチナンチュ大会（同実行委員会主催）の前夜祭パレードが30日、那覇市の国際通りで行われた。海外13カ国26都市から約1600人が参加した。国内県人会や県内団体などを含めると計約3千人が各国・



各地の音楽や踊りを披露しながら練り歩いた。この日は6年前の前回大会で制定された「世界のウチナンチュの日」。沿道は多くの県民や観光客であふれ、パレード参加者と共にウチナンチュの絆の強さを確認した。

肝心(ちむぐる)で温かく

玉城デニー知事はパレード前の式典で、海外からの参加者に感謝と歓迎の言葉を述べ、県民に「**待ちちょーたんどー(お待ちしていました)**と声をかけ、肝心(ちむぐる)で温かく迎えてほしい」と呼びかけた。

米ハワイ州知事で県系3世のデービッド・イゲ氏は「はいさい、ぐすーよー(こんにちは、みなさん)、アロハ」と、沖縄とハワイの言葉を交えてあいさつ。「国際通りでつくる思い出は、かけがえない思い出になる」と話した。



またんめんそーりよー まっちょーんどー！

“Matan – Mensoriyo”

See you again in Okinawa in five years!

Nos vemos de nuevo en Okinawa dentro de cinco años!

Vemo-nos novamente em Okinawa daqui a cinco anos!

沖縄の留学生との交流 将来、各国で中心的役割

沖縄の高等教育機関 海外交流、在籍留学生

琉球大学 2021年

- **交流協定** 大学・機関数 大学間交流…87校 部局間交流…41校 合計**128校**
- 交流協定大学との学生交流 交換学生:受入…**54人** 交換学生:派遣…**27人**
- **研究者の交流**
 - 本学研究者の海外派遣…7人 外国人研究者の受入れ…35人
- **留学生数(2022年5月)**
 - 学部生…75人 大学院生…141人 科目等履修生…4人 研究生…8人
 - 特別聴講学生…50人 特別研究学生…1人 合計**279人**

沖縄の大学

- 沖縄県立芸術大学、沖縄県立看護大学、名桜大学、沖縄国際大学、沖縄大学、沖縄キリスト教学院大学、沖縄キリスト短期大学、沖縄女子短期大学、沖縄科学技術大学院大学

5 沖縄で学んできたことと岐阜県の課題

(1) 沖縄で学んできたこと

① 沖縄戦の教訓

- ・基地のある所に戦争がやってくる。
- ・戦争になったら軍隊は住民を守らない。住民をスパイ視。
→ 基地があれば守ってもらえて安心どころか、戦争を呼び込んでしまう。
- ・命どう宝 沖縄戦を語る中で生まれた言葉(不戦の誓い)

② 勝つ方法はあきらめないこと

- ・小さな運動体がコツコツ活動 → 6・8・10万人集会
- ・署名での対話と学習
- ・小集会の継続的開催(ミニ集会多数) → 琉球新報・沖縄タイムスが掲載
- ・スタンディング、座り込みなどアピール行動

③悪政反対とともに住民要求を突きつける

- ・辺野古新基地建設反対 オール沖縄、沖縄統一連、ヘリ基地反対協議会など
- ・沖縄憲法25条を守るネットワーク(沖縄25条の会)2015年設立
- ・沖縄県社保協 沖縄初25条集会 2019年3月 木村草太弁護士講演会 520名

④地元の運動が他地域の運動を支える

- ・自分の地域は関係ないはありえない。

⑤「軍拡反対・増税反対」「憲法9条を守れ」のスローガンだけではだめ

- ・ミサイル配備をやめよ。平和外交を進めよ。
- ・受信する側から発信する側へ 地域の語り部となる。
- ・NHK、新聞、ミニコミ誌、所属団体機関紙誌への投稿が活発。

(2)岐阜県の課題

- ①自衛隊岐阜基地の実態と関連企業の役割(地域経済・市民生活と安保)
- ②地域から平和の声をあげる創意工夫(地域課題から全国課題へ)